

中小企業の業況は、全体的にはやや改善傾向であるが、産業別には改善と悪化が入り交じり、不透明な状況である。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成24年10～12月期の実績と平成25年1～3月期見通しについての調査結果（回答率87%）をまとめた。本調査は3ヶ月毎に年4回行う。

業況DI値について、前年同月の今期（平成24年10～12月）の状況を集計したところ、業況判断DIはプラスで推移しており、前期と比較してやや改善の動きが見られた。

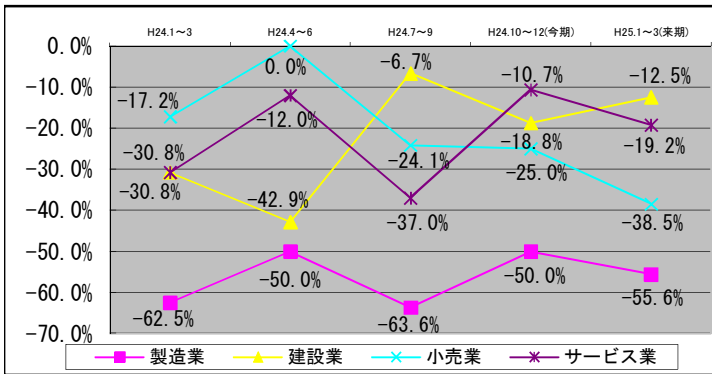
全業種のDI値に見る業況判断は、製造業：▲64%→▲50%、建設業：▲7%→▲19%、小売業：▲24%→▲25%、サービス業：▲37%→▲11%となった。前回調査でDI値の悪化傾向にあった製造業、サービス業ではポイントの改善が見られ、逆に前回改善が見られた建設業は悪化しており、公共工事の減少が影響していると思われる。

新規設備投資について、今期中に設備投資を実施した企業は全体の18.5%で、特に変化は見られない。来期はOA機器の他、建物店舗、設備機械への計画も一部見られる。また、今期の経営問題では、依然として需要の停滞が上位に挙がっており、政府のデフレ対策・景気対策を望みたい。

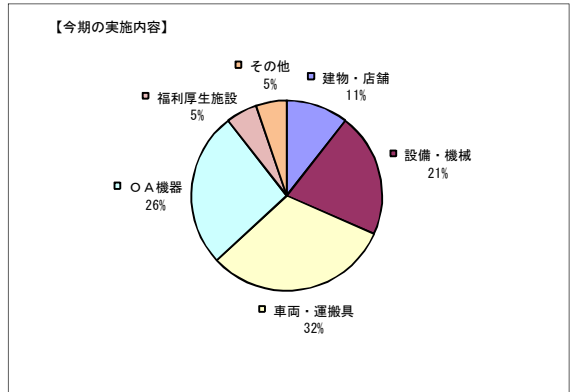
◆業況DI値（今期の状況）

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	-23%	↗	-29%	↘	-19%	↗	5%	↘	-28%	↗	-2%	↗
製造業	-50%	↗	-82%	↘	-36%	↗	18%	↘	-40%	↗	-10%	↗
建設業	-19%	↘	-31%	↘	-13%	→	25%	↗	-38%	↘	6%	↗
小売業	-25%	↘	-13%	↗	-24%	↗	-7%	↘	-30%	→	-4%	→
サービス業	-11%	↗	-21%	↗	-7%	↗	-7%	↘	-15%	↗	-4%	↗

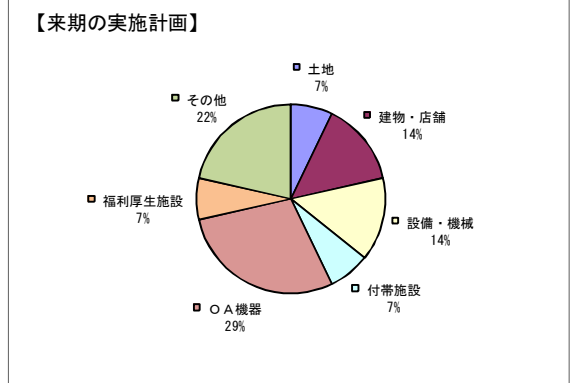
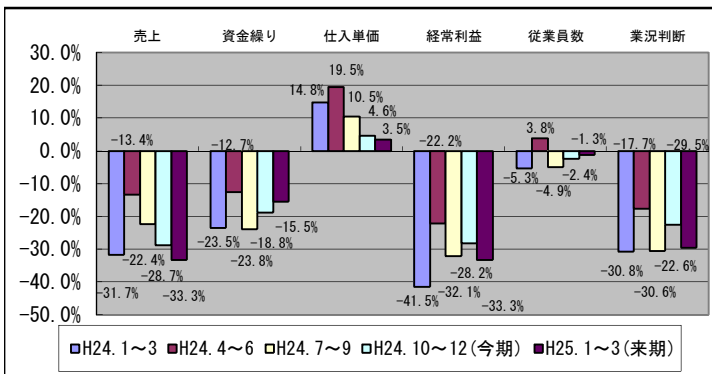
◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）



◆新規設備投資（今期実施・来期計画）



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



◆経営上の問題点

	製造業		建設業		小売業		サービス業	
1位	需要の停滞	23.3%	民間需要の停滞	25.0%	需要の停滞	18.4%	利用者ニーズの変化への対応	21.9%
2位	原材料価格の上昇	20.0%	請負単価の低下・上昇難	12.5%	消費者ニーズの変化への対応	17.1%	需要の停滞	15.6%
3位	製品(加工)単価の低下・上昇難	16.7%	官公需要の停滞		販売単価の低下・上昇難	11.8%	新規参入業者の増加	14.1%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。